

令和6年度富山県美術館運営委員会 議事抄録

日時：令和6年11月11日（月）14:00～15:30

場所：富山県美術館3階ホール

1 開会

2 あいさつ

3 議題

(1) 報告事項

- ① 展覧会事業について
- ② TAD ギャラリーについて
- ③ 教育・普及活動について
- ④ 広報等について

(2) 意見交換

今後の富山県美術館の運営について（意見交換）

4 閉会

主な意見要旨

【A 委員】

県外からのゲストを民藝展に案内したところ、じっくり観覧され、「展示方法なども含めて新しい発見があった」「地域の財産・文化を元にした展覧会で大変良い」と評価いただいた。

「ポスタートリエンナーレトヤマ (IPT)」を毎回見ているが、今回は、受賞作品はもとより、入選作品もレベルが高く、IPT の評価が高まっていることを感じた。

(オーバードホール中ホール横の) キャニオンストリートがいよいよ開通し、通過すると、もう美術館の屋上が見える場所に至る。富山駅から美術館がワクワクする通りで繋がりが、非常に近い印象になった。富山駅で、バスでどうやって美術館に行くか聞かれたことがあり、わかりやすい誘導サインがあればよい。

【B 委員】

アートとデザインのバランスを取れた形で、展覧会の企画をしている。素晴らしいコレクションがあるので、次の展覧会では東野芳明を取り上げるが、コレクションの成り立ちを改めて振り返ることもとても大事だと思う。一般の観覧者はどうしても企画展に目が行きがちで、コレクションの方ももっと知っていただくことができればよいと思う。来年度は、国立アトリサーチセンターの事業「コレクションプラス」を富山県美術館で実施するので、新たな発見のある、見ごたえのある展示となることを期待している。

【C 委員】

美術館を紹介した方から「実際に見て非常に良かった」という声をよく聞く。実際に足を運んでいただくことが大事。子供向けのプロジェクトも取り組んでいるが、やはり小さい頃から美術館に足を運び、皆と一緒に何か作ったり、楽しんだりする経験があると、大きくなってからも美術館にも足を運ぼうという気持ちになり、とてもよいことだと思う。今やっていることの質を高めていけば良いと感じている。校外学習の利用を増やすなど、学校との連携を進めるとよい。

【D 専門員】

校外学習で利用したが、事前学習として「はじめしゃちょー」出演の You Tube 動画を活用した。高岡市美術館では、冬休み期間に、子供たちの作品を展示する「クリエイティブ・たかおか」を行っている。美術館に足を運べば作品を一生懸命見る子供たちが多くいるので、ぜひ機会をとらえて子供たちを美術館へ引率したいと考えている。美術館へのアプローチの仕方はたくさんあり、学校側も勉強したい。

【E 委員】

TAD ギャラリーで開催中の富山県美術連合会作家展「3つのシンフォニー」展では、日本画・洋画・彫刻・工芸・写真・書の6部門を2つに分けて、県内の作家を選び展示している。回数を重ねるにつれ、より見応えのある作品が並ぶようになってきたと感じ

ている。中堅・若手作家が発表するよい機会になると思う。このほか、作家の発表の場として、県展、越中アートフェスタ、美術連合展、県展新人賞展などがあるが、今後も協力いただきたい。

【F 委員】

美術館によく足を運んでいるが、人気のある企画展で駐車場が満車の時に、どこに駐車すればよいかという問題がある。近隣駐車場を利用すればよいが、どこにあるかわかりづらい。近隣駐車場の案内も広報に加えると、より来館しやすくなるのかと思う。

SNS も多く発信しているが、例えば駐車場案内や、ワークショップ・普及プログラムなど来館につなげたい情報は特に、LINE 公式アカウントなどを使ってプッシュ型の情報提供を行うと、より親しみやすい美術館に繋がっていくと思う。

【G 委員】

「アートとデザインをつなぐ」という美術館の理念がしっかり根づいて、市民・県民の方に本当に親しまれている、という印象を受けている。富山県立近代美術館からの素晴らしいコレクションの展示は、いつも見ると驚く。コレクション展に企画展と同程度の観覧者数があることは珍しく、学芸員の企画力と優れたコレクションがある所以かと思心している。

バランスの良い展覧会構成がなされており、普及活動は3本の柱（みる・つくる・発表する）で組み立てられて充実して、県内の美術団体や、大学生から小さなお子さんまで、全方位的に取り組んでいる。今後の美術館は、美術愛好家だけではなくファミリー層に開かれていることが集客のために重要だと思うが、子供が美術に親しめる取り組みがなされている。

最近「インクルーシブ」という言葉がよく聞かれ、美術館の課題でもあるが、そういう話題だけではなく、もっと掘り下げた多様性がこれから必要になってくるかと思う。

【H 委員】

オープンラボのプログラムは、お客様・お子様に大変喜ばれており、非常に人気のあるプログラムの場合、材料がなくなることがある。予算は決まっており、無料プログラムのため仕方がないとは思いますが、（オープンラボの運営に携わる）ボランティアから、もう少し予算はないのか、という意見があった。

友の会は富山大学の学生 100 名を含め、会員数 450 名を超えている。富山県美術館のファンクラブとして、会員に魅力を発信し、会員数を増強していきたい。ボランティアとあわせて、富山県美術館を盛り上げていきたい。

【I 委員】

より多くの人に美術館に来ていただいで楽しんでいただくことが大切だが、エッシャーや民藝など、普段は美術館に行かない人でも関心を持つような展覧会を行うことで多くの美術ファンを増やしていき、良いことだと思っている。

教育普及活動も本当に大切に、資料に令和 5 年度の参加人数と今年度の現時点の参加人数が記載されているが、昨年度はとても参加人数が多かったものや、今年はすごく多かったものなど、年によって差がある。その理由を分析するで、より効率的に、より多くの人たちが参加できる仕組みができるのではないかと思う。

四館連携事業もとてもよい。やはり、せっかくなので他の美術館と連携して、いろいろな楽しみ方を提案していただきたい。前回は申し上げたが、オーバードホールの音楽・演劇等のイベントとのコラボなどもあれば、より富山らしいオリジナルなものができるのではないかと思った。また、富山県では、現在、寿司とウェルビーイングに力を入れて戦略を立てているが、スタンプラリーの賞品を富山湾鮭クーポンにしたり、アートレクチャーのテーマでウェルビーイングを取り上げたり等、県全体の戦略とコラボしているのも素晴らしい。もっと強固なものにして、県全体で様々なものが連携して PR できるようにするとより良いと思う。

【J 委員】

今年注目していた企画展が「ポスタートリエンナーレトヤマ」。応募作 4,557 点のうちの入選作 390 点が一堂に展示室に並ぶ光景は大変貴重だと思う。今回私も入選した

のでとても誇らしい。富山市内を歩くと「ポスターの街とやま」や「ポスタートリエナーレ」のポスターをよく見る。本当に富山県全体で盛り上げているなという印象がある。

ポスタートリエナーレにあわせて、各地のデザイナーが富山に遊びに来ることも多い。私もデザイナーを富山県美術館に案内したが、富山県美術館は本当に県を代表する施設になっているという印象だった。

また、土日にアトリエに足を運ぶと、親子で一緒に作品づくりをする姿がほほ笑ましい。現在の新聞紙とガムテープのプログラムも、家でも楽しむことができ、アートを楽しむきっかけになるワークショップだと思う。今後も期待している。

【K 委員】

ワークショップなど、参加型体験型のプログラムがあることはとてもよい。学習発表会などで子供たちの作品を見ると、同じテーマで同じ材料でも、一人一人違った感性で様々な作品を作っており、子供たちは皆すごい感性を持っていると感心した。子供たちがこの美術館に足を運び、ワークショップに参加したりすることで、その感性をもっともっと伸ばしてあげられたら良いと思う。

MOA 美術館では、夏休みに児童作品展の作品募集を行っている。富山県が誇る県美術館でも、作品募集があったらよいのではと思う。

富山県公式 YouTube チャンネルで四館連携 PR 動画を見たが、県出身俳優の室井滋さんの声で面白おかしく各館を紹介されていて、大変面白い。YouTube だけでなく地上波のテレビ CM があれば、多くの人に届くと思う。

【L 委員】

近年は様々なところで多様性を取り込んだ仕組みづくりや、共創・共栄の場が広がっている。それら多様性を受け入れるには、心を開いて複雑なことへの許容力があることが前提となっている。その複雑な物事を取り込む力は、アートのように正解を押し付けない物に多く触れ、感性を豊かで寛容にすることが役に立つと信じている。

今年度の企画展を顧みると、エッシャー展や民藝展は、普段アートから少し距離があ

る人にも興味の対象となる吸引力があり、美術館へ足を運ぶきっかけとなることで、県民の多様性の素地を作ることには貢献していると考えます。今後も引き続き、多様な企画を織り交ぜて地域に愛される美術館である事を望む。

【生活環境文化部長】

- ・建設的なご意見をたくさんいただいた。
- ・美術館だけでは対応できない部分もあるかと思うので、美術館をサポートする立場としても、対応できるよう努力していきたい。

【館長】

- ・たくさんのご意見を頂戴し、感謝申し上げます。
- ・いただいたご意見を参考に、美術館の施設・環境を大いに活かし、県民の皆様や国内外から訪れるお客様にウェルビーイングを感じられる時間を届けられるよう、職員一同、また所管部とも、取り組んでいきたい。